



現在は空き家になっている宮瀬邸
昔は「津の国」という遊郭でした



当時をしのばせる玄関の跡



棚に残されていた「待合」の看板

**これはすごい！往年の港町
とばの風情を残す宮瀬邸**

江戸時代、大坂から江戸に物資輸送が盛んになると、鳥羽の港は、食料や飲料水を補給し、天候の回復を待つ回船や千石船の「風待ち港」として栄えました。

鳥羽には、こうした回船の

船乗りを相手に身の回りの世話や接待をする「ハシリガネ」と呼ばれた遊女がいました。大里や本町地区には、昭和30年ごろまで、10件ほどの「待合」と呼ばれた遊郭がありました。今も所々にその当時をしのぶ建物が残っています。鳥羽みなとまち文学館の向かいに宮瀬邸という家がありま

すが、ここは「津の国」という昔の遊郭の跡です。今も、中に入ると、当時の玄関や遊女が待機した部屋、「待合（まちあい）」と書かれた看板、番傘などがそのまま残されていて、驚かされます。お隣の伊勢市の古市街道は、日本三大遊郭として遊郭が存在したことは知られていますが、当時をしのぶことのできるような建物は全く残っていないことから、鳥羽に残るこの建物は、当時の遊郭の面影をしのべる貴重な建物であると云えます。

しかしながら、宮瀬邸は、現在は空き家となっています。また、建物の裏側は崩れてきていて崩壊の危機にあります。

「港町とば」をしのぶことのできる唯一の建物ですので、早急に保存に向けての対策を講じる必要を感じます。

鳥羽のお宝 再発見!



vol.7

教育委員会生涯学習課
☎ 1268

みんな子育て



子育て広場

だっこでほっと

「行事」ってなあに？

vol.6

子育て支援センター

☎・FAX 7221

こどもの日、七夕、十五夜、節分、ひな祭り…。日本は古い伝統を持った行事の多い国です。

しかし、何の日で、その意義は？由来は？ということについて、知らないことがあまりにも多いのではないのでしょうか。

「だっこ」では、季節の行事や遊びを取り入れています。その中で、敬老の日の前には、お母さんたちが、こどもの成長をおじいちゃんおばあちゃんとともに喜び合えるように、また、日ごろのおじいちゃんおばあちゃんへの感謝の気持ちを込めて、こどものとびっきりの笑顔入り写真立てのプレゼント作りをしました。祖父母に喜んでいただきたいの思いで、いろいろなアイデアで飾りつけをしています。

く一生懸命なお母さんたちの姿が印象的でした。

また、一年のうちで一番きれいな十五夜には、お母さんと一緒に紙をころころ丸めて「お月さまどうぞ」とだんごを作り、お月さまの会を開催。お米や野菜、果物がたくさん実ったことにみんなで手を合わせました。

わたしたちが、こどもたちにかかわり、その中で親育ちもしていただき、心豊かな生活を過ごしていただけたらいいですね。

そして、これからの世代を担うこどもたちに、伝統的な行事が、日本人として国際人として、大切に伝承されていくといいなと心から思っています。

次は何の行事があるのかな。楽しみにしていってください。